

明治町デイサービスセンター

明治町デイサービスセンター



明治町デイサービスセンター 榎本 比呂志

令和元年度、明治町デイサービスセンターの経営基盤強化として収入目標を9,000万円、1日平均利用者数35名としている。

まず、当法人内での通所事業としては、老健施設での通所リハビリテーション（以下、デイケア）と、明治町エリアの通所介護（以下、デイサービス）である。デイケアでは、医療度が比較的高く、リハビリテーションを強化しており、それが必要な方々もしくはそれを求める方々が利用している。しかしながら、当法人デイケアは、利用者数超過が懸念されるほど充実しており、その利用者の中には「卒業（終了）」が適当な利用者もいることが推測される。デイサービスでは、デイケアと比較して、医療度が比較的低く、レクリエーション等の諸活動（以下、アクティビティー）を中心に、生活の質を向上していくことに力を入れている。

デイケア利用者が、状態安定し卒業（終了）することで、デイサービスの利用を試みたり、デイサービス利用者にリハビリテーションの必要性が生じ、デイケアの利用を試みたり、デイケアおよびデイサービス間で、利用者の情報共有に努め、より適切なサービス提供が出来るように連携を図っていききたい。

そして、利用者の状態像からみると、デイサービス利用者は、要支援及び要介護1・2の比較的軽度の利用者が84%で、要介護3・4・5の比較的重度な利用者が16%である。事業所内の移動能力も車椅子使用者17%、歩行介助・見守り25%、歩行自立

58%という状況で、歩行可能な方々が、8割以上を占めている。このような比較的軽度な方々へのサービス提供は、一方的な直接援助が中心のケアよりも、「一緒に考える」「一緒に育む」「一緒に過ごす」といった共同のケアが必要ではないかと考えている。そういったサービスの中で、我々が提供しなくてはならないことは介護保険サービスといった画一的なサービスではなく、もっと「個」を支えるケアに着目していききたい。その人の基本的な生活を支援するADL「食事」「入浴」「排泄」「更衣」「整容」への支援に加え、「楽しむ」という支援を強化していききたい。楽しい食事、楽しい入浴、楽しい排泄、楽しい更衣、楽しい整容…しかしながら、「楽しむ」は個の感覚によって異なるものであり、当然画一的な対応は困難となる。そこで、介護保険でも言われてきた「自己決定」「自己選択」が有効な手段となる。決定・選択が困難な方々には、我々が必要と判断する選択の支援をしていかななくてはならないが、基本的には決定・選択の提供をしていききたい。

今年度は、デイケアおよびデイサービス間で、利用者の情報共有に伴う効果を確認することと、活動内容の多様化を目指し、自分で選択することのできるサービスを利用者と一緒に作りだしていききたい。そして、利用者と一緒に楽しい時間を過ごしていききたい。そのようなデイサービスを目指し、努力していききたい。